

平成15年度企画展

武雄の歴史シリーズ

祈り

—— 仏の教え、神の道 ——

会 期：平成16年2月21日(土)～4月4日(日)

会 場：武雄市図書館・歴史資料館 企画展示室

観覧料：無 料

神を崇め、先祖を敬うといった「祈る」行為は、地域社会や家庭での生活習慣として伝えられてきたもので、地域の風土と人情を作り上げてきました。

「祈り」は、神や仏に幸を請い願うもので、私たちの生活に密着した精神文化といえます。

神には、自然神崇拜、王をはじめとする人々の神格化、生産等を司る観念的な神などに分けられ、原始・古代の時代から私達日本人の生活に深くかかわっています。また、6世紀の半ばには仏教が百済から伝えられ、奈良時代には神道に劣らず国家性を得、神道と接触・混合(神仏習合)し、神は仏法の守り神として寺院に神が祭られあるいは神社に寺が建てられました。また、神は仏の化身とする説(本地垂迹説)が唱えられました。中でも天照大神を大日如来・盧舎那仏と合体にみたり、御霊信仰の疫神祭祀と密教が習合する中で祇園社(八坂神社)に牛頭天王が祭られました。この神仏習合は江戸時代まで続きます。

明治維新になると、神仏分離令が出され、神社から仏教色を取り去る政策がとられ、廃仏毀釈運動が全国で展開され、数多くの文化財が灰燼に帰し、多くの寺院が破却されました。

川古のクスに彫られた観音立像もこの時に顔面を削られました。

神に祈る手段の一つに、神慮を慰める、奉納することが上げられます。踊りを舞ったり、浮立を演奏したりします。悪霊を払い、豊穰を祈り感謝するもので、これらは伝承芸能と呼ばれ、あるいは年間行事として私達の生活に密着しています。

神器

古代において鏡・玉・剣は、宝器として扱われ、八咫鏡（やたのかがみ）、八坂瓊曲玉（やさかにのまがたま）、天叢雲劍（あめのむらくものつぎ）は、皇室の三種の神器と呼ばれています。武雄地方の弥生時代・古墳時代の遺跡からも鏡・玉・剣が発見されており、豪族の登場を窺うことができます。

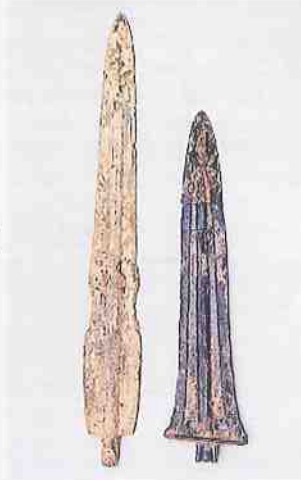


玉江遺跡出土 銅矛



茂手遺跡出土 有鉤銅剣

釈迦寺遺跡出土
銅剣・銅戈



矢ノ浦古墳出土
変形獣帯鏡

武内宿禰と武雄地名起源



武内宿禰像（弓野人形）

神功皇后が新羅から帰国後、筑前で産後の養生をしておられるとき、ある夜夢枕に「西の方、三日行程のところには武雄という霊泉があります。これに入浴すると回復が早いでしょう」と、神のお告げがありました。皇后はさっそく武内宿禰の先導により武雄に來られました。武内宿禰は、以前に土蜘蛛八十女と戦争をしながら武雄に來ており、この地は亡き父を祀るのにふさわしい霊地と思っていました。そこで、御船山の山頂に父君武雄心命をお祀りし、武雄社と名づけました。里人たちは武雄心命の名をとって、この地を「武雄」と呼ぶようになりました。

武雄の地名伝説にはもう一つの説があり、肥後の国を平定した「健甕組」が今の武雄の地にもやってくる、そこから武雄となったといわれています。

武雄に残る仏教資料



銅造誕生仏（廣福護国禅寺蔵）

6世紀半ばに伝来した仏教は、全国に広まり、11世紀半ばには末法思想が広がる中、有力者は書写した經典を経塚に埋めて後世に伝えようとした。

鎌倉時代になると領主の開基、聖一国師が開山した廣福寺が建てられ、四天王像を始めとする仏像や仏画が今に残されています。また、この時代の中頃～後半にかけて宝塔が造られ、八並や淀姫神社下にみられます。

また、奈良時代の僧行基が川古のクスの幹に観音立像を刻んだという伝説が残っています。



矢ノ浦経塚出土品



牛ノ谷経塚出土品

おつぼ山経筒



川古のクス幹彫り観音立像・銅造如意輪観音坐像（皿宿区蔵）



陽刻線描宝塔（武雄温泉株式会社蔵）



神仏習合



神仏習合とは、わが国の神祇信仰と仏教が接触、混融して独特の行法・儀礼・教義を生みだした宗教現象をいいます。神仏両宗教ともわが国の歴史的風土に最も適合した形へと変化し、独特の習合文化を生み出しました。

例えば、天照大神を大日如来・盧舎那仏と同体とみたり、神を仏の鎮守として祭ったり、あるいは神は仏の仮の現れと信じる本地垂迹説が鎌倉時代に完成しました。

祇園社（八坂神社）は旧来の疫神祭祀に密教が関与し、9世紀に南都興福寺の僧円如が観慶寺を神宮寺として土地の疫神に代わってインドに起源を有する牛頭天王という神をまつりました。武雄町の素鷲神社には牛頭天王が残されており、古いものは平安時代後期の作と考えられています。

本地垂迹説に基づくものとしては、懸仏があります。橘町潮見神社に残されている懸仏は、聖観世音菩薩像で、背面の銘から建久六年(1195)に造られたものを長崎渋江家祖の公姿が再興したことがわかっています。

牛頭天王座像（小楠区蔵）



懸仏（潮見神社蔵）



男神像・女神像（小楠区蔵）

人から神へ

古神道の神々は自然神・人間神（英雄・偉人・長上など）・観念神の3種に分けられるといえます。中でも重要な神は、当時の社会生活の単位である氏族の守り神（氏神）であり、時代の下降するに伴い氏神を祖神とみなす傾向が生れてきます。

各地の神社には、神話に登場する神々や祖先神など、いくつかの柱をおまつりしているのが普通です。

武雄地域では、菅原道真を祭った天神様が水の神様として集落ごとにまつられています。また、勇猛闊達で知られる戦国時代の領主後藤貴明は、戦いの神様としてまつられています。さらに江戸時代後期、蓮池藩の前田伸右衛門は、用水不足に際し、池の内堤の嵩上げをしました。この恩を忘れないため、大日区では前田宮を建て、毎年12月8日には伸右衛門祭りを行っています。



後藤貴明公像（貴明寺蔵）



前田伸右衛門肖像（大日区蔵）

神への奉納



中野の荒踊

毎年秋分の日に磐井八幡に奉納。



高瀬の荒踊

毎年秋分の日に松尾神社に奉納。



宇土手の荒踊

西暦奇数年秋分の日に正一位神社に奉納。



真手野の舞浮立

6年に1回4月の招魂祭(春祭り)に武内神社に奉納。今年は奉納年。



大日の皮浮立

毎年7月28日に大日如来堂に奉納。



袴野の面浮立

西暦奇数年秋分の日に貴船神社に奉納。



武雄供日の流鏝馬行事

流鏝馬奉納

毎年10月23日の武雄供日に奉納。

前日の22日夜には、宵まつりとしてエイトーが武雄神社～温泉通～宮野町～八並～甘久のコースで行なわれます。

23日は午前中、八並～武雄神社に「上り馬行列」、武雄神社下の馬場で流鏝馬が奉納された後、八並に向けて「下り馬行列」が行なわれ、途中武雄温泉にも立寄ります。



エイトー



下り馬行列

協力者(敬称略)

今回の企画展を開催するにあたり、下記の皆様方からご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

甘久区・小楠区・皿宿区・大日区・中野区・納手区・袴野区・八並区・貴明寺・廣福護国禅寺・潮見神社・武雄神社・佐賀県立博物館



武雄市図書館・歴史資料館

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304番地1

TEL 0954-20-0222

FAX 0954-20-0223